

春休み @ストラスブール大学 フランス語短期語学研修



しっかりフランス語を学びます



ストラスブールのシンボル
ノートルダム大聖堂

今年度もフランス、ストラスブール大学でのフランス語短期語学研修が行われます。この研修は、言語文化Ⅲ「文化事情(フランス)2」として開講され、「文化事情(フランス)1」と合わせて履修することにより単位認定されます。

期間 2018年3月4日(日)～18日(日)の2週間(予定)

定員 20名

- 参加資格**
1. 学部1、2年生
 2. 本学教養教育院にて「フランス語」科目の規定の単位を取得済み
 3. 後期木曜5限「文化事情(フランス)1」を履修または履修済



ストラスブール大学学生と



アルザスの家庭訪問

費用

12万円程度(以下1,2,3を含む;航空券は含まれない)

1. 学費:
ストラスブール大学附属語学学校にて授業(月から金)、市内見学、ヨーロッパ議会見学、美術館見学、郊外散策など
2. 宿泊:
ストラスブール市内の宿舎 2人部屋 2食つき(予定)
3. 家庭訪問、ストラスブール大学の学生との交流

費用補助

日本学生支援機構(1人につき8万円、16人分)および名古屋大学から補助を得られる可能性がある。(成績評価係数2.3以上の学生が対象)

説明会

9月29日(金)の5限に全学教育棟Call1教室にて、研修と履修登録に関する説明会を行います。必ず出席のこと。授業などのやむを得ない事情により出席できない参加希望者は、必ず前もって研修担当の奥田智樹教員にメール okuda@lang.nagoya-u.ac.jp で連絡すること。事前連絡なく欠席すると、選考において不利になります。
★詳細や前回(2014年度)の研修の様子については、「名古屋大学 フランス語小部会のHP」<http://french.ilas.nagoya-u.ac.jp/> や、言語文化Ⅲ「文化事情(フランス)1、2」のシラバスをご参照下さい。教養教育院の掲示にもご注意ください。



清潔でくつろげる寝室



自由時間にストラスブール市内で

シラバス抜粋 言語文化Ⅲ「文化事情(フランス)1」後期木曜5限

❖ 履修条件あるいは関連する科目等

フランス・ストラスブール大学での短期語学研修(2018年3月4日(日)~18日(日)実施予定)に参加希望の学生を対象とする。但し、上記研修に参加を希望しない学生の受講も可能。

❖ 授業内容: 本学教員によるオムニバス形式で行う。

- ①10月5日: 飯野和夫(名古屋大学名誉教授)「ローマの継承者フランス？」
- ②10月12日: 尾上順(工学研究科)「ワインのケミストリー」
- ③10月19日: 古橋忠晃(総合保健体育科学センター)
「フランスの青年の社会的不適応と精神医学」
- ④10月26日: 田所光男(人文学研究科)
「フランス語圏ポピュラー・カルチャーの中のマイノリティ」
- ⑤11月2日: 間野忠明(岐阜医療科学大学)「近代フランス医学の黎明期」
- ⑥11月9日: 渡邊雅子(教育発達科学研究科)
「フランスのことばの教育と思考表現スタイル」
- ⑦11月16日: 茂登山清文(名古屋芸術大学)「ストラスブール—街, アート, デザイン」
- ⑧11月30日: 奥田智樹(人文学研究科)「フランス語史への誘い」
- ⑨12月7日: 小田洋一(国際機構)「パストゥール研究所とフランスの生命科学」
- ⑩12月14日: 小栗栖等(人文学研究科)「フランス語の起源」
- ⑪12月21日: 隠岐さや香(経済学研究科)「フランス革命と科学の文化~メートル法制定の経緯」
- ⑫2018年1月11日: ニコラ・ポーメール(教養教育院)「フランスの食文化: 料理、作法、風景」
- ⑬1月18日: 新井美佐子(人文学研究科)「ジェンダーから見るフランス社会」
- ⑭1月25日: 鶴巻泉子(人文学研究科)「フランス社会と移民」
- ⑮2月2日: 藤村逸子(人文学研究科)「フランス語によるプレゼンテーションの方法」

なお、本授業の単位認定には、15講終了後の指定の期日までにレポートを提出することが求められる(レポート試験)。レポートの課題、分量、提出期限、提出方法等は授業中に説明する。

❖ 成績評価の方法: 出席50%、レポート試験50%。レポート不提出の場合欠席扱いとなる。

❖ 注意事項

本授業2単位の認定を受け、ストラスブール大学での語学研修に参加し、課題提出による評価を受けた学生は、「文化事情(フランス)2」の1単位が認定される(「文化事情(フランス)2」のシラバスも確認すること)。また、上記研修への参加を希望しない学生には、「成績評価の方法」に従ってSABCいずれかの評価を得た場合、本授業の2単位を認定する。

授業風景



フランス側責任者の Lett 先生(中央)と別れを惜しむ



トラムで移動



ヨーロッパ議会見学